記者発表資料

平成 27 年 1 月 29 日
国 土 交 通 省 東 北 地 方 整 備 局
東 日 本 高 速 道 路 ㈱東 北 支 社

常磐自動車道　浪江IC～南相馬IC、相馬IC～山元IC
〈開通1ヶ月後〉
新たに開通した常磐道の交通量及び整備効果をお知らせします

常磐自動車道　浪江IC～南相馬IC間（18.4km）、相馬IC～山元IC間（23.3km）が平成26年12月6日（土）に開通しました。開通後の交通状況（速報値）及び整備効果について、お知らせします。今後も引き続き、開通による効果について順次調査・整理を行っていきます。

平成26年12月6日（土）に、常磐自動車道が開通しました。

■新規開通区間の開通1ヶ月間の交通量※1は、2，300台／日～8，000台／日、常磐道（新地IC～山元IC間）に並行する国道6号の交通量は3割減少（4，700台／日の減少）

■国道6号（新地IC～山元IC間）の旅行速度が1.3倍に向上し、復興事業促進に貢献

■高速バスの利便性向上、所要時間短縮で利用者が約5%増加

■相双（そうそう）地域から仙台の三次救急医療機関への所要時間が約10分短縮、搬送割合は約2倍に増加

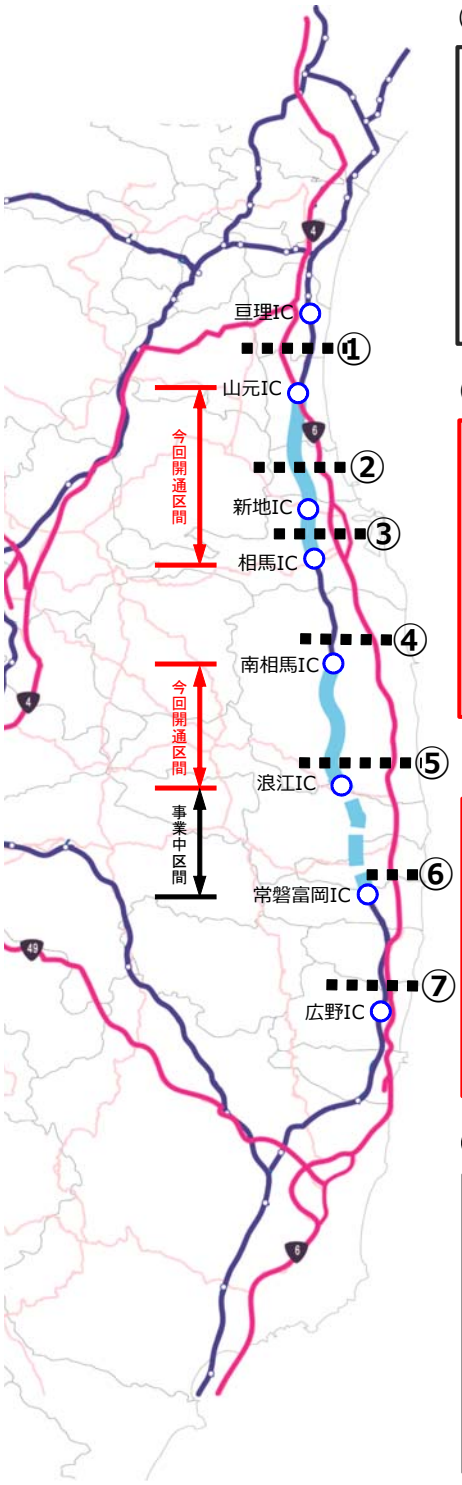
※1：開通1ヶ月間の交通量は、平成26年12月7日（日）～平成27年1月6日（火）の日平均値
ただし、平成26年12月24日（水）～平成27年1月4日（日）を除く

（お問い合わせ先）
東日本高速道路㈱ 東北支社 広報課(報道担当)　TEL. 022－217－1706
（受付時間／平日9:00～17:25）

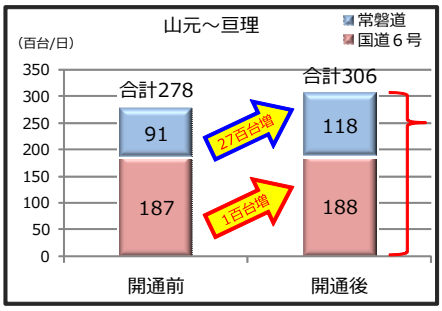
※本資料については、青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者クラブ、東北専門記者会にお配りしています。

常磐自動車道　開通後の交通状況

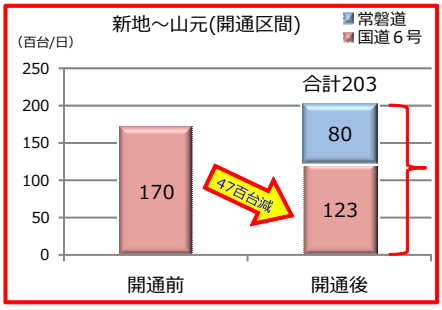
- 常磐自動車道の新規開通区間の交通量は2，300台/日～8，000台/日
- これまで開通していた隣接区間の交通量は、約3割増加
- 常磐道（新地IC～山元IC間）に並行する国道6号の交通量は約3割減少（4，700台/日の減少）
- 常磐道と国道6号の交通量の合計は、最大で2割程度増加



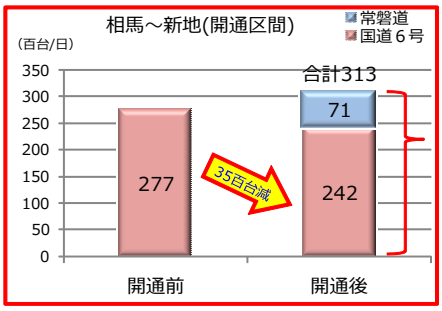
①



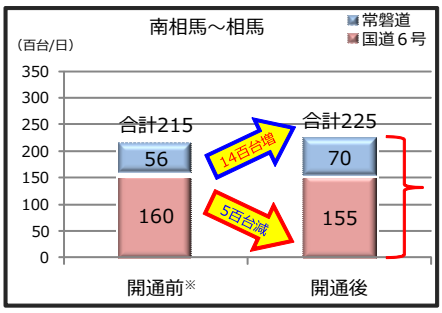
②



③

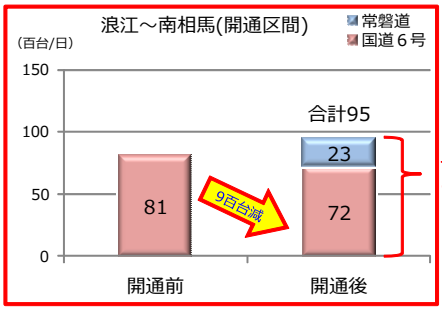


④

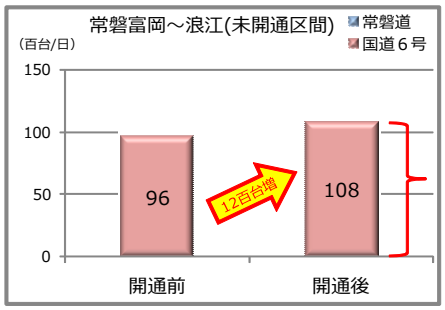


※常磐道南相馬IC～相馬IC間はサイクリング大会による通行止め実施
(11/30　8:00～17:00)

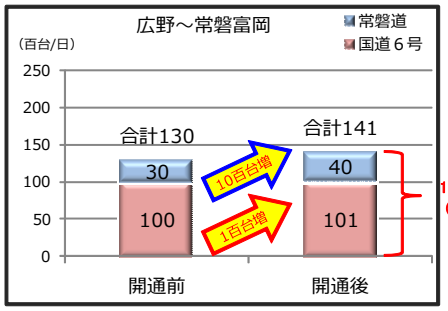
⑤



⑥



⑦



※出典：NEXCO東日本データ、国土交通省データ（交通量調査）

開通前：平成26年11月29日（土）～12月5日（金）

開通後：平成26年12月　7日（日）～平成27年1月6日（火）

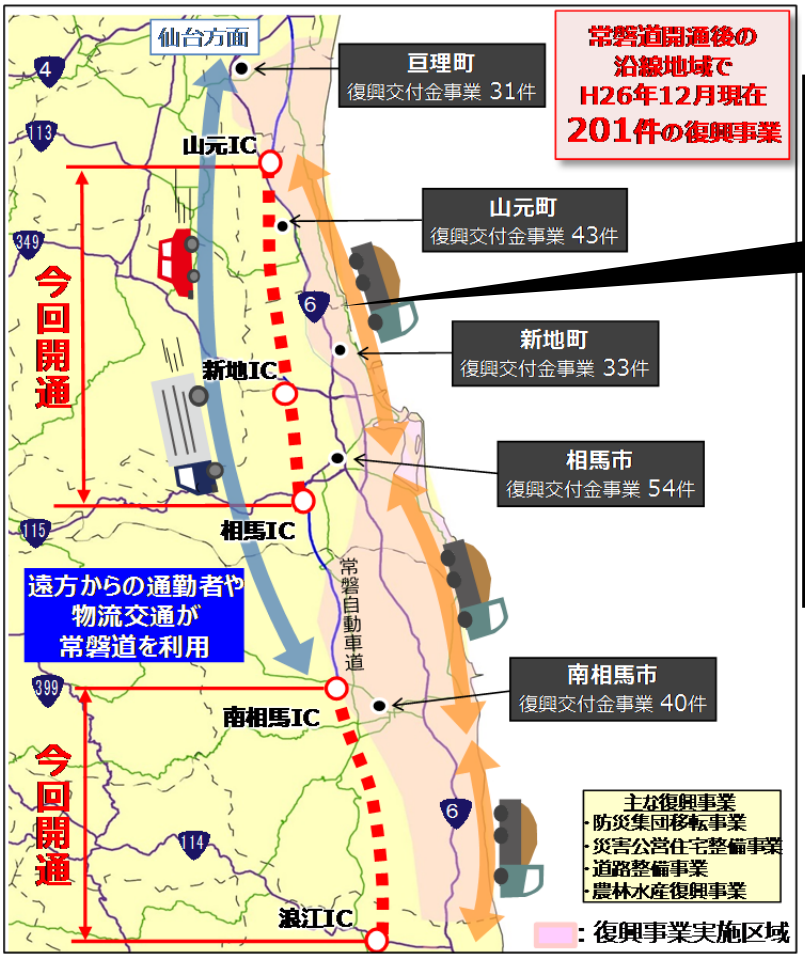
【ただし、平成26年12月24日（水）～平成27年1月4日（日）を除く】

交通量は上記期間の日平均値

国道６号の旅行速度が１.３倍に向上、復興事業促進に貢献

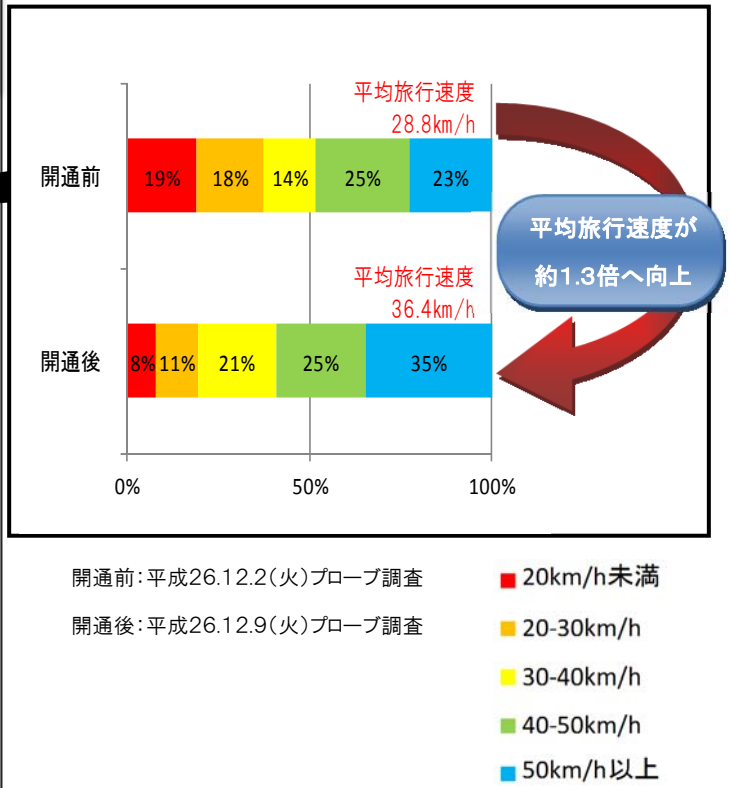
■ 常磐道の沿線5市町では201件の復興事業が進捗中
■ 常磐道の開通により国道6号（新地IC～山元IC間）の旅行速度が1.3倍に向上し、復興事業促進に貢献

▼沿線地域の復興事業状況



資料：各市町村ホームページより整理

▼常磐道（新地IC～山元IC間）に並行する国道6号の旅行速度区間分布（上り7時台）





■復興事業者の声（通勤関連）

・開通後は、常磐道の利用によって、**仙台方面からの通勤時間は10分～20分短縮した。**
・開通前は、福島第一原発関連工事や除染作業に向かう車両により国道6号の一部で渋滞が発生していましたが、**開通後は渋滞も減った。**
・今後、通勤圏を仙台以北（大和IC付近）まで拡大して募集することができる。



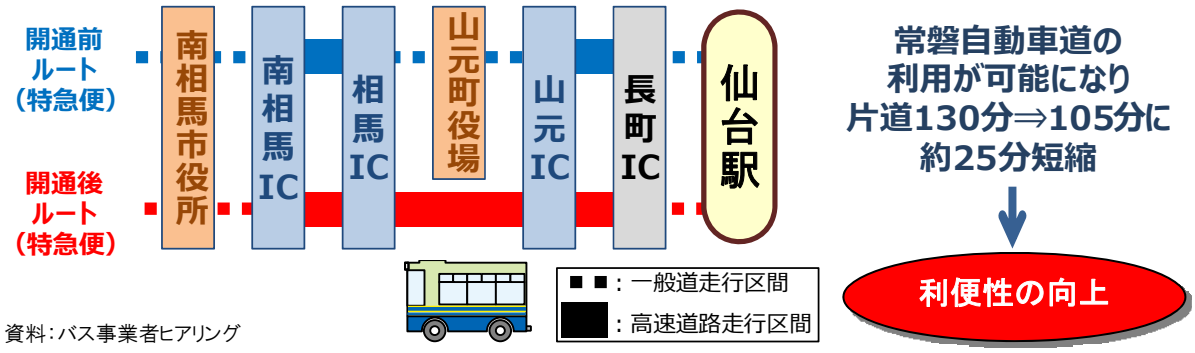
■復興事業者の声（復興事業関連）

・常磐道の開通により国道 6 号の交通量が分散し、渋滞は解消され、土砂運搬トラックが**片道 10 分くらい時間短縮**になりました。
・**計画通りの作業を進めることができるようになりました。**

高速バスの利便性向上、所要時間短縮で利用者が約５％増加

■ 常磐道の開通に合わせて南相馬⇔仙台間の直行高速バスが12月7日より増便運行
■ 定時性確保、所要時間短縮により高速バス利用者が約5%増加
■ 開通以前、高速バス以外を利用していた方々が、買い物や観光･レジャーを目的に高速バスを利用

▼南相馬⇔仙台間のバスの利便性向上



資料：バス事業者ヒアリング

※片道の所要時間は時刻表　上下線平均値より

▼南相馬⇔仙台間のバスの運行便数増加

	常磐道開通前	常磐道開通後
通常便	8往復/日（片道140分）	8往復/日（片道140分）
特急便	2往復/日（片道130分）	4往復/日（約25分短縮⇒片道105分）
計	10往復/日	12往復/日

・仙台直行の特急便
　1日2便⇒4便に拡大
・利用者数が開通後約5%増加（前年比）

資料：バス事業者ヒアリング

※片道の所要時間は時刻表　上下線平均値より

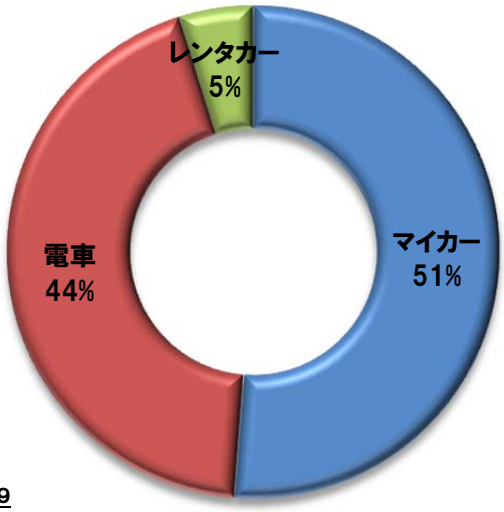


■バス事業者の声

・常磐道の開通により特急便（南相馬市⇔仙台市を直行運行）を4便運行可能となった。
・開通前は、一般道の渋滞により到着遅れが発生していたものの、常磐道の開通により、時刻表通りの運行が可能となり、定時性が確保された。
・常磐道開通から1ヶ月経過し、特急便の所要時間が短縮され、1ヶ月間の利用者数は前年比で約5%増加となっている。

▼常磐道開通よる移動手段の変化

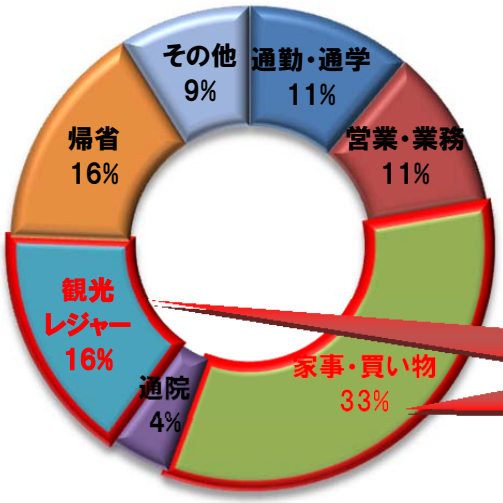
開通前は高速バス以外を利用していた方々の移動手段



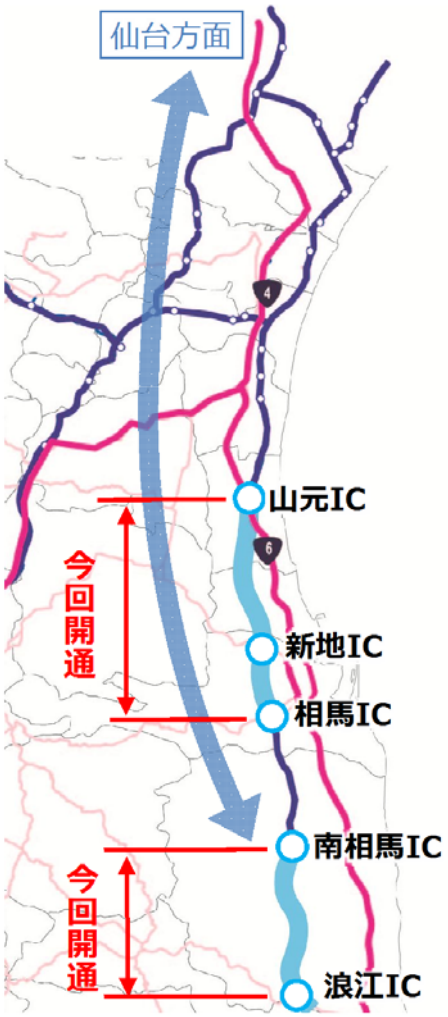
回答数　n＝109

内　開通前に高速バス以外を利用していた方々　n＝41

開通前は高速バス以外を利用していた方々の高速バス利用目的



家事・買い物、観光レジャー
割合は約5割



■バス利用者の声



・避難してバラバラに生活している家族や友人と、震災前のように会えるようになった。
（南相馬市在住50代女性）

・開通前と比べ仙台に行きやすくなり買い物などで活動エリアが広がった。
（南相馬市在住20代男性）

・時間に余裕ができ、多くの施設を回れるようになった。（南相馬市在住30代男性）

・南相馬～仙台が高速連結したので、特急便で通勤時間が30分減った。
（南相馬市在住40代男性）

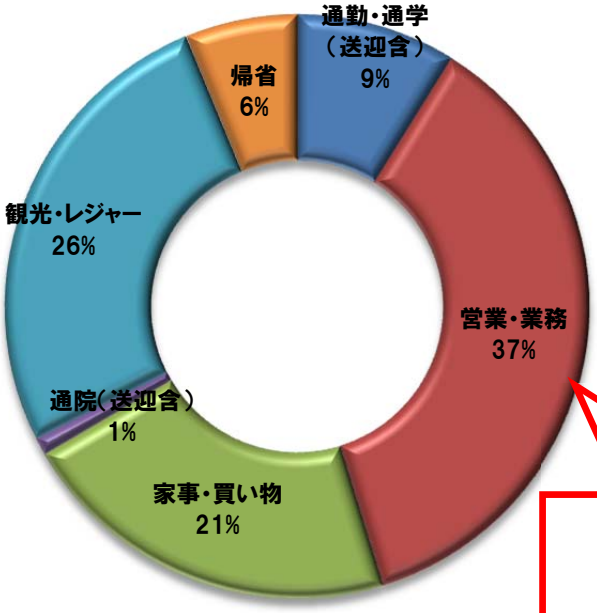
・仙台～南相馬間を以前はレンタカーで移動していたが高速バス利用で楽に移動できるようになった。（東京都在住30代男性）

資料：高速バス利用者へのアンケート調査結果　（平成27年1月9日（金）～1月10日（土））

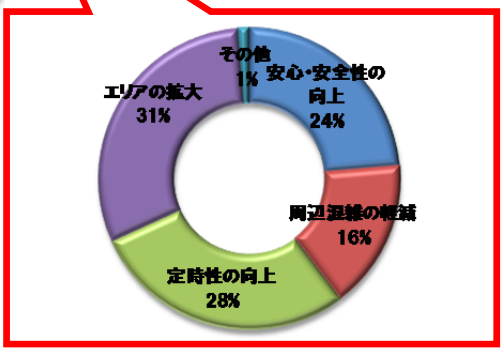
常磐道の開通により業務エリアが拡大

■ 常磐道を業務目的で利用している31％の方々が業務エリアの拡大を実感

▼常磐道利用者の利用目的



▼営業・業務の開通効果



回答数　n＝305



■常磐道を利用している方の声（営業・業務）

・開通したことにより目的地到着が早くなり、**今まで3件程度しか取引先をまわれなかったが、7件まで増やすことができるようになった**。（仙台市在住30代男性）

・国道6号は復興のための大型車がたくさん走っており、混雑に巻き込まれやすかったが、今は楽になった。移動時間が短縮されたことで、**今まで行けなかったエリアの業務も行けるようになった**。（仙台市在住60代男性）

・**相馬から来る取引先が増えた**。（仙台市在住30代男性）



■常磐道を利用している方の声

・以前は山元まで1時間ぐらいかかったが**30分ほど短縮される**ので、これから**買い物や観光（仙台近辺）の機会が増えそう**。（南相馬市在住50代男性）

・**地元ではなく、名取市のショッピングモールに行くことが増えた**。あまり時間もかからなくてスムーズに行ける。（相馬市在住20代女性）

・時間が短縮し便利になり**東北への観光が増える**。（千葉市在住40代男性）

・**親戚が岩沼市なので会う機会が増えた**。（いわき市在住50代男性）

資料：常磐道利用者へのアンケート調査結果

平日：平成26年12月22日（月）

休日：平成26年12月21日（日）

時間短縮で救命率向上に期待、相双地域の救命医療に貢献

■ 常磐道の開通により相双地域から仙台の三次救急医療機関への所要時間が約10分短縮
■ 常磐道開通後の仙台への搬送割合は、開通前と比べて約2倍へ増加
■ 常磐道が「命の道」として、相双地域の救急医療に貢献

▼三次救急医療機関の60分圏域及び所要時間

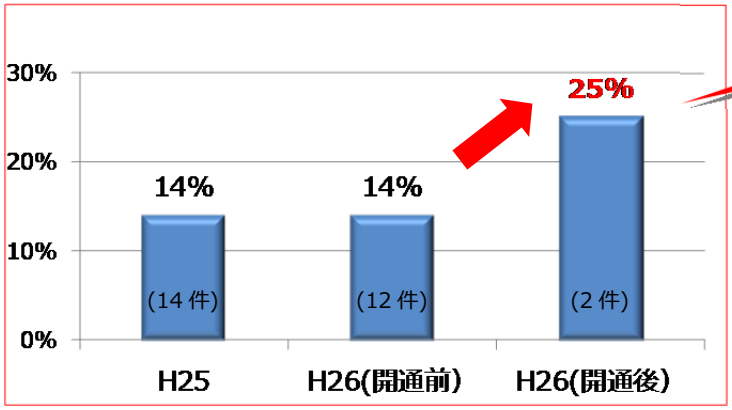


資料：H22交通センサス　　※搬送実績は三次救急医療機関への搬送

重症外傷では、受傷から決定的治療（definitive treatment：手術や止血術など）を開始するまでの時間が1時間を超えるか否かによって生死が分かれると報告され、この最初の1時間をgolden hour（ゴールデンアワー）と呼び、外傷患者の治療上重要視されています。（JPTEC協議会による定義）

▼三次救急医療機関への救急搬送実績の推移

（全体搬送件数に対する仙台方面への搬送割合）



仙台への搬送割合は、開通前に比べて約2倍へ増加

資料：相馬地方広域消防本部
H25　　：平成25年　1月1日～平成25年12月31日
H26(開通前)：平成26年　1月1日～平成26年12月　6日
H26(開通後)：平成26年12月7日～平成26年12月31日
※グラフ中（ ）内の件数は仙台への搬送件数



■地域の声（地元消防（相馬））
・三次救急医療機関の搬送先は、**搬送時間と道路事情、症状等により判断**している。
・これまでも相馬から仙台へ救急搬送していたが、**搬送が速くなるので、常磐道をさらに活用する。**



■地域の声（常磐道利用者）
・今まで仙台に通院する際は、時間に遅れることがあったが、常磐道開通後は**時間通り通院出来るようになった。**（相馬市在住40代女性）
・**仙台の大きな病院への通院が楽になった。**（南相馬市在住60代男性）

常磐自動車道の概要

常磐自動車道は、東京都を起点とし、埼玉県、千葉県、茨城県、福島県を経て
宮城県仙台市に至る約352kmの高速道路です。

今回開通区間の概要



■道 路 名 ：常磐自動車道

■区　間 ：浪江IC(福島県双葉郡浪江町大字室原) ～ 南相馬IC(福島県南相馬市原町区)

延長 18.4 ㎞

相馬IC(福島県相馬市粟津) ～ 山元IC(宮城県亘理郡山元町大平)

延長 23.3 ㎞

【参考】常磐自動車道　開通後の交通状況（年末年始）

■ 年末年始における常磐自動車道の新規開通区間の交通量は日平均2，200台～7，800台

日　付	日別交通量（台/日）		
	浪江IC～南相馬IC	相馬IC～新地IC	新地IC～山元IC
平成26年12月24日（水）	2，100 （ 8，200 ）	7，100 （ 27，800 ）	7，900 （ 13，900 ）
平成26年12月25日（木）	2，300 （ 8，300 ）	7，300 （ 27，500 ）	8，100 （ 14，100 ）
平成26年12月26日（金）	2，800 （ 8，400 ）	7，600 （ 27，900 ）	8，500 （ 13，100 ）
平成26年12月27日（土）	2，800 （ 6，300 ）	7，400 （ 22，200 ）	8，500 （ 11，300 ）
平成26年12月28日（日）	2，000 （ 3，900 ）	6，500 （ 16，000 ）	7，700 （ 8，700 ）
平成26年12月29日（月）	1，900 （ 3，700 ）	5，900 （ 17，500 ）	6，900 （ 8，900 ）
平成26年12月30日（火）	2，000 （ 3，800 ）	6，100 （ 16，300 ）	7，000 （ 8，200 ）
平成26年12月31日（水）	1，500 （ 2，900 ）	4，500 （ 13，400 ）	5，100 （ 6，400 ）
平成27年　1月　1日（木）	1，500 （ 2，800 ）	5，300 （ 11，300 ）	6，300 （ 6，800 ）
平成27年　1月　2日（金）	2，200 （ 3，600 ）	8，000 （ 14，100 ）	9，500 （ 8，400 ）
平成27年　1月　3日（土）	2，900 （ 4，100 ）	8，300 （ 14，700 ）	9，600 （ 9，000 ）
平成27年　1月　4日（日）	2，700 （ 4，800 ）	7，500 （ 15，300 ）	8，700 （ 8，700 ）
年末年始の日平均交通量	2，200 （ 5，100 ）	6，800 （ 18，700 ）	7，800 （ 9，800 ）

（　）内は、国道6号の交通量

※出典：NEXCO東日本データ、国土交通省データ（交通量調査）